

科目区分:基礎	科目名:文化人類学	担当:安溪 遊地
単 位:1単位(15時間)	開講期:2年(後期)	選択
<p>【授業の概要】 言葉や宗教などが日本とはたいへん違う文化圏から来られている患者さんの担当になったら、気をつけることは何でしょう？ また、近い将来、外国籍のスタッフとともに働くようになる時に、日本人の患者さんが「ガイジンはいや、あんたにやってもらいたい」と言い出されたらどう対応しますか？ そんなときに適切に対応するためには、文化人類学の基礎を身に付けていることが大切になります。医療や看護分野に限定せず、たがいに違うものどうしの理解や平和的共存のために不可欠の考え方と日常の注意点を具体的に学びます。</p> <p>【達成目標】 1. 世界の人々のもつ多様な生活様式や価値観を敬意と興味をもって学ぶことができる。 2. 自分の文化が一番優れているという思い込みを離れて批判的に見る広い視野をもつ。 3. フィールドワークの大切さを知り、調査するということが人権侵害でありうることに気付く。</p> <p>【履修条件・注意事項】 ただ、座って講義を聞くだけではない、アクティブラーニングを取り入れます。自分の意見を発言したり、グループで意見を交換したり、可能な場合には、体を動かして体験するのが苦手でない人向けです。</p> <p>【授業計画】 ①人類学の2分野——文化人類学と自然人類学 動画1「不平等にはサルでも怒るか」 動画2「自分のDNAの来た道がわかったら」 ②方法1・フィールドワーク入門——出かける前に大事なこと アクティブラーニング(以下AL)「西表島で酔っ払ったおじさんからまれたら」 ③方法2・異文化を鏡として自分を知る——はじめての海外はコンゴ民主共和国 AL「人口100人ほどの森の村で村長さんから『養子にならんか?』と言われたら」 ④異文化ショック1・森と川がコンビニ——コンゴの森と川の民の智慧に学ぶ AL「塩と砂糖だけを村外から買ってくる人口100人ほどの森の村で、できる料理の数は何種類?」 ⑤異文化ショック2・お金にたよらない暮らし——グローバルなお金・ローカルなお金・物々交換・贈り物 AL「ある日突然、使っているお札が通用しなくなったらあなたの暮らしはどうなるでしょう?」 ⑥自文化を見直す1——地域固有の豊かさの崩壊と地球の未来 AL「あなたのスマホに不可欠のレアメタルがコンゴ内戦に直結していると知ったらどうしますか?」 ⑦自文化を見直す2——医療や看護を問い直す AL「目には見えない、あなたの身の回りの危険について話し合ってみよう」 ⑧結論・みんなちがってみんな「?」——たくさんの思いこみからの解放 AL「疑問や感想を小グループで語り合って、そこからレポート課題をみつけよう」</p>		
<p>【テキスト】 宮本常一・安溪遊地、2008『調査されるという迷惑』みずのわ出版。授業で販売します。価格1000円。</p> <p>【参考図書】 池田光穂、2010『看護人類学入門』文化書房博文社 波平恵美子編著、2011『文化人類学 カレッジ版 第3版』医学書院(もと系統看護学講座の1冊)</p>		
<p>【成績評価】 毎回のアクティブラーニング(AL)における積極的参加を平常点(40%)とし、最終レポート「私が文化人類学から学んだこと(これは副題。本題は自分で付けること)」2000字程度(60%)で評価する。最終レポートは、気付き(意識の変化)・学び(誤りは減点、本からの引用必須)・表現(誤字は減点)を30:20:10で採点。</p>		